

「沼津市自転車活用推進計画(案)」パブリックコメントの結果

沼津市自転車活用推進計画(案)についてパブリックコメントを実施しましたところ、市民の皆様から貴重な意見をいただき、ありがとうございました。皆様からいただきました意見の概要と市の考え方・対応をお示します。ご意見をいただきました皆様には深く感謝いたします。

1. 実施期間 : 令和2年12月14日(月)～令和3年1月15日(金)
2. 閲覧場所 : 市ホームページ、市役所(まちづくり政策課、生活安心課)、市内各市民窓口事務所、市立図書館
3. 提出者数 : 3名
4. 意見件数 : 6件

沼津市自転車活用推進計画(案)パブリックコメント

No.	意見の概要	市の考え方・対応	修正の有無
1	沼津港から千本までの堤防を更なる整備や活用してほしい。 スロープの改善、分かりやすい標示の整備をお願いします。 この堤防は富士まで海岸沿いで通られますので、とても魅力的と思いますが、計画ルートに追加指定いただきたいです。	<p>ご提案いただいた富士海岸の堤防は、沼津港から千本浜、富土地域へ接続し、富士山や駿河湾の美しい景観を楽しみながら走行できることから、数多くのサイクリストが訪れています。</p> <p>この堤防は、国が管理しており、海岸の適正利用を定める海岸法の趣旨に沿って自由に使用するという原則のもと、歩行者や自転車のほか一部区間では自動車が通行しております。</p> <p>このため、専用の自転車歩行者道として指定し活用するためには、多くの関係者の御理解を得ることが不可欠となっています。</p> <p>市としましては、富士海岸の太平洋岸自転車道としての活用や走行環境の整備に向けて、引き続き国や県と協力し、検討してまいります。</p>	無

No.	意見の概要	市の考え方・対応	修正の有無
2	<p>ネットワーク計画に係るところですが、矢羽根の整備と自歩道について質問致します。</p> <p>自転車利用者、車の運転手からもひとつの道路で矢羽根の整備と自歩道の混在は非常に分かり難く、自歩道は極力避けるべきかと思えます。</p> <p>もし、自歩道区間が残っていたとしても、歩道への誘導が自転車利用者のみならず、車の運転者にも明確に示されないと、恐らく一般の運転者は自転車がどの信号に従うか判断できる人は少ないと思われま。</p> <p>車、自転車双方の安全を考えると混在を残すよりどちらかに一本化すべきだと思います。</p>	<p>現在市では、平成 29 年 11 月に策定した「沼津市自転車ネットワーク計画」に基づき、自転車ネットワーク計画路線について、安全で快適な自転車利用環境の整備を推進しております。</p> <p>本計画では、「自転車は車両であり車道を通行することが大原則」という観点から、安全で快適な自転車利用環境の整備を推進することを目的に、ガイドラインに沿い「自転車道」「自転車専用通行帯」「車道混在」への整備を進めております。自転車ネットワーク計画路線における通行空間の整備が完了しますと、計画路線における「自転車歩行者道」は全て廃止となります。</p> <p>なお、整備途中においては路線内に「自転車歩行者道」が残存してしまうこともあるため、警察と協議を行い安全に配慮したうえで毎年整備を進めております。</p>	無
3	<p>414 号の三園橋から通称三つ目ガードまでの区間ですが、左側の歩道上での整備は、自転車走行の十分な空間が確保されておらず、しかも行き止まりになるので無意味な整備だと思います。</p> <p>また三園橋上から三園橋交差点にかけても、道路の左側端、歩道上も十分な走行空間も確保されず、三園橋交差点以降の自転車走行帯へのスムーズな連続は確保されてません。</p>	<p>三園橋から三つ目ガードにかけた国道 414 号は、自動車の交通量が多い路線であることから、自動車と自転車の通行箇所を分離すべき路線と考え、「自転車道」を整備形態として選定しております。</p> <p>また、当該区間は、鉄道高架後の道路形態を見据えて、将来的に連続した自転車通行空間となるよう整備を計画しております。</p>	無
4	<p>本来は、この「自転車活用推進計画」において、No.2 や 3 に挙げた課題の洗い出しと整備計画が市民にとって重要だと思いますがいかがでしょうか？</p>	<p>今回策定する「沼津市自転車活用推進計画」は、自転車通行空間の整備のほか、交通安全教育の実施や良好な都市環境の形成、健康の増進などを含んでおり、自転車の活用を総合的かつ計画的に推進することを目的として作成しております。</p> <p>自転車通行空間の整備については、平成 29 年度の「沼津市自転車ネットワーク計画」策定時に、課題の洗い出しや各種調査を実施し、整備計画として位置付けております。</p> <p>今後も自転車の利用状況や道路の整備状況などを踏まえ、路線及び整備形態の見直しを行い、「沼津市自転車ネットワーク計画」の改定を行ってまいります。</p> <p>引き続き、安全で快適な自転車利用環境を提供できるよう取り組んでまいります。</p>	無

No.	意見の概要	市の考え方・対応	修正の有無
5	<p>目標2についてですが、自転車を日常的な移動手段の一つとして活用し、選択してもらうことが重要です。自転車を日々の生活に組み込んでもらい、自動車と、公共交通や自転車に乗る場面とを、少しずつ使い分けていくことで、徐々に自動車への依存が低減していくことに繋がっていくと思いますので、移動の利便性の向上ももちろん重要ですが、自転車をライフスタイルに組み込んでもらう視点も考慮してみたいはいかがでしょうか。</p>	<p>自転車をライフスタイルに組み込むという視点については、大切な視点だと認識しており、沼津市自転車活用推進協議会においても議論いたしました。</p> <p>その中で、目標1から目標4までを達成するために実施する各施策の展開を図ることで、ライフスタイルとして浸透し自転車が交通手段の一つとして利用されることなどを表現することとし、「4-2 計画の目標」の下段に「自転車文化の醸成へ」として記載いたしました。</p> <p>しかし、自転車をライフスタイルへと組み込むという表現については、文章として記載されていなかったことから、「4-1 基本方針」及び「4-2 計画の目標」に表記を追加することといたしました。</p> <p>また、各施策の推進にあたっては、ライフスタイルに組み込む視点を大切に、取り組んでまいります。</p>	有
6	<p>また、同じく目標2のヒト中心のまちづくり推進プロジェクトの新技术を駆使した次世代モビリティツールの活用検討ですが、これからの時代の変化や将来を見据えた取り組みだと思いますが、一方で、新技术だけでなく、今ある資源の魅力や、地域で日常的に自転車を楽しんでいる人や状況など、既に存在しているモノ・コト・ヒトにスポットライトを当て、公民が連携し、日常に自転車を溶け込ませ、自転車を日常的に活用した生活様式にしていくことが重要です。沼津市ではこれまで、今あるまちの魅力を最大限に活かし高めるリノベーションまちづくりに取り組んでこられたかと思えます。自転車活用の分野にもリノベーションまちづくりの考え方や取り組みを盛り込み、連携して取り組んでいただきたいと思います。</p>	<p>既存ストックや公共空間を活用するという視点も重要であることから、いただいたご意見を参考に、施策23「新技术を駆使した次世代モビリティツールの活用検討」を、「移動が楽しめる新たなモビリティツールの活用検討」とし、リノベーションまちづくりと連携した取り組みという視点や事例を追加します。</p>	有